



ジェンダーの観点から中国史研究を行い、既成のジェンダー観念の相対化をめざす

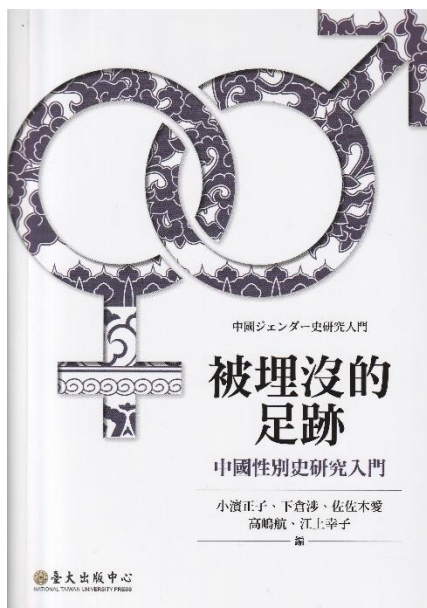
法文学部 教授 佐々木 愛

ジェンダーとは社会的文化的な性のことをさします。社会や文化というのは人間がつくったものですので、現在の我々が持っているジェンダー観—どのようなことが男性らしく、女性らしいのかと考えるのか—は、決して永遠の真理などではありません。それぞれの地域に住む人たちがどれほど異なるジェンダーをもち、かつそれぞれの地域の人たちが歴史的にどのようにジェンダーを変えてきたか、という研究は、既存のジェンダー観を相対化し、私たちがより自分らしく生きることを、歴史学の立場から支える研究といえるでしょう。

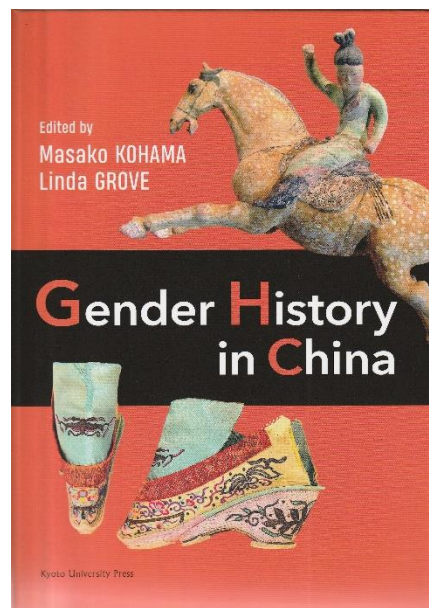
中国は儒教の影響で強固な父系制が超歴史的に継続してきたと理解されてきたのですが、ジェンダーという観点を採用することによって、堅固にみえた中国の父系制も、実は歴史的に徐々に作られていったものだった、ということ、他の研究者と共同でいま明らかにしつつあります。この論点を掲げて共著で出版した『中国ジェンダー史研究入門』(2018年)は、台湾で中国語版、オーストラリアで英語版が出版され(2021年)、世界のジェンダー史研究を牽引する役割が期待されています。



日本語版



中国語版



英語版